

ナースマンに聞いてみた! Vol.1



東5階病棟看護師 若林 翔希

かつて女性の職場といわれた看護師も男性看護師が増え、当院では3割弱が男性です。そこで「ナースマンに聞いてみた」と題しイケメンナースマン(?)のインタビュー企画を立ち上げ(シリーズ化を目指すも…皆さまの応援が必要です)ました。Q&A式で彼らの素顔に迫ります!

Q1 若林さんが看護師になろうとしたきっかけは?

親族に看護師が多く、充実した日々を送っている姿や、家族からもやりがいのある仕事だと聞いて自分も看護師になろうと思いました。

Q2 現在、勤務している部署を紹介してください

主に、手術を受ける患者さんが多く入院する病棟です。平均入院日数は10.2日と短いため、治療後に日常生活で注意して頂きたいことをわかりやすく患者さんやご家族にお伝えし、退院後も不安のない生活ができるよう支援しています。

Q3 お休みの日はどのように過ごしていますか?

月に1度は高校からの同級生と一緒にキャンプに行きます。主に、春から秋にかけて景色の良い時期にキャンプに行くことが多いですが、今年は、冬のキャンプにもチャレンジしようと思っています。友人と一緒に自然の中で過ごすことで、心身ともにリフレッシュしています。

Q4 今後、自分の目指す看護師像がありましたら教えてください!

病棟のスタッフ、患者さんから信頼される看護師を目指したいです。



■病棟スタッフ、患者さん病棟看護師長(高見澤看護師長)から若林さんへメッセージ

患者さんに丁寧に看護している若林さん、これからも患者さんやご家族の想いを大切に、看護をしていきましょう。今後の成長を楽しみにしています。

附属看護学校だより

■ 病院祭に参加しました

令和5年9月23日(土) 病院祭が開催されました。



ハンドマッサージ



学習展示



院長先生と学生

学生の声

学校祭である「りんどう祭」を病院祭に参加という形で行うことができました。

実習の合間に企画準備運営をクラス全員で協力し、楽しみながら行うことができました。感染症対策も考えながら地域の方々に楽しんでいただけるように企画運営もしました。たくさんの地域の方々と触れあう中でいろいろな話を聞くこともできて地域において看護学校の存在の大切さも知ることができました。最後の学年としてとても良い経験となりました。

実習の合間ではありましたが、リフレッシュもできたので、残りの実習も頑張っていきたいと思います。

学生の声

今年は、学校祭である「りんどう祭」のかわりに、病院祭に看護学校としてブース展示という形で病院祭に参加しました。

当日私たちは、学習展示、ハンドマッサージ、手作りしおり体験手作りビーズ作り体験のブースを運営しました。

自分たちが思っていた以上のたくさんの地域の方々に参加していただきました。私たちも、地域の方々と一緒に楽しみながら参加することができました。看護学生最後の病院祭、みんなでやり遂げることができてとても嬉しかったです。



手作りしおり体験



ビーズアクセサリー作り体験

■ 全ての実習を終えて

3年生は、11月24日に3年間で履修すべき実習10クールが終了しました。

母体病院である信州上田医療センターをはじめとし、沢山の実習施設の方々、地域の皆様の支えのおかげで実習を行うことができました。長い間ありがとうございました。

これからは、看護師国家試験に向けてクラス一丸となり切磋琢磨していきます！！



学生 の声

3年間のそれぞれの領域別実習で、その領域でのみ学べる専門性を学ぶことができました。1年生の時に学習した知識と技術を土台さらに知識を深めることができました。

臨地実習は、受け持ち患者に合わせた看護を考え、実際に看護師さんの姿を間近で見ることができ将来の自分の姿をイメージすることもできました。

実習病院、実習施設のスタッフの方々、学生を受け入れてくださった患者さん家族の方々に感謝の気持ちを忘れずに、国家試験に向けて頑張っていきたいと思います。

学生 の声

昨年の11月から始まった領域別実習、統合実習を終え達成感を感じています。そして数か月後には看護師として働き始めることができるのであろうかという不安な気持ちもあります。

また、看護師国家試験の合格に向け本格的に集中していく時期に突入したなと感じています。

さまざまな実習施設、母体病院患者さんや利用者さん、実習指導者の方々からたくさん学びがあり、貴重な機会をくださったみなさまに感謝の気持ちを持ちながら、技術知識ともに精進していきたいと思います。ありがとうございました。

学生 の声

3年間の実習を通して、さまざまな疾患を理解し患者さんに合わせた看護を考えていく難しさを痛感しました。

患者さんに合わせた看護を考える上では1年次に学んだ知識と技術がとても重要で、それらを理解した上で患者さんとコミュニケーションを取りその人に合わせた個別性を捉える事が患者さんに寄り添った看護につながることを学ぶことができました。

ありがとうございました。

